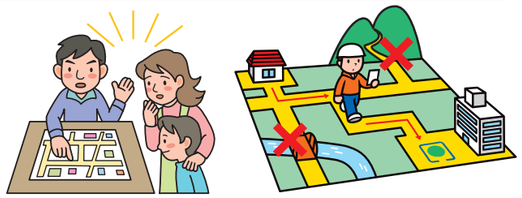
自助・共助・公助

わが家の防災対策

自分や家族を守ることが「防災の基本」です！

● 避難経路・避難先の確認



災害時にあわてないために、どこへどの道を通って避難するのかを、日頃から家族や隣近所で話し合っておきましょう。
11 ～ 16ｐ、23 ～ 24ｐのハザードマップを参考に、危険な箇所を確認しておきましょう。

● 連絡手段の確認

災害時に家族が揃っていられるとは限りません。災害用伝言ダイヤルなどの連絡手段をあらかじめ確認しておきましょう。

▶▶▶▶ P26 情報の伝達・情報の入手先

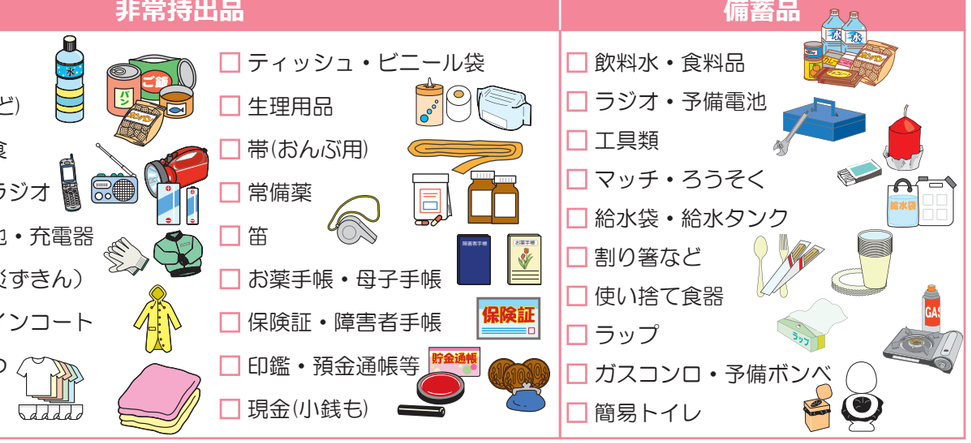
● 備蓄品等の確認

いざという時に使えるよう、日頃から備蓄品を定期的に使うなどして消費期限や保存状態に気を配りましょう。

自助

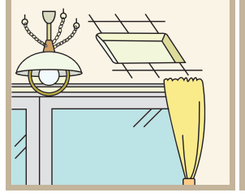
非常持出品・備蓄品

非常持出品	備蓄品
□ 飲料水	□ 飲料水・食料品
□ 非常食(乾パンなど)	□ ラジオ・予備電池
□ 粉ミルク・離乳食	□ 工具類
□ 携帯電話・携帯ラジオ	□ マッチ・ろうそく
□ 懐中電灯・乾電池・充電器	□ 給水袋・給水タンク
□ ヘルメット（防災ずきん）	□ 割り箸など
□ 軍手・上着・レインコート	□ 使い捨て食器
□ 下着類・紙おむつ	□ ラップ
□ 毛布・タオル類	□ ガスコンロ・予備ボンベ
□ ティッシュ・ビニール袋	□ 簡易トイレ
□ 生理用品	
□ 帯(おんぶ用)	
□ 常備薬	
□ 笛	
□ お薬手帳・母子手帳	
□ 保険証・障害者手帳	
□ 印鑑・預金通帳等	
□ 現金(小銭も)	

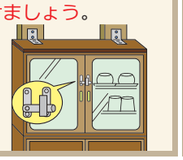


● 家具の固定対策

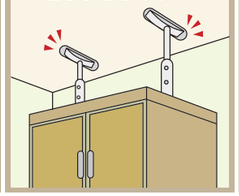
照明器具
- 金具と鎖等を使って数箇所止めましょう。
- 蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで止めておきましょう。



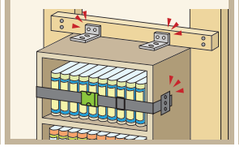
食器棚
- L 字金具などで固定し、棚板にはすべりにくい材質のシートなどを敷きましょう。
- 扉や食器棚等には開放防止金具を取り付けましょう。



タンス
- 転倒防止のため L 字金具で壁に固定するか、天井との間に突っ張り棒を入れて固定しましょう。



棚
- L 字金具などで固定し、ワンタッチのベルト式器具で飛び出しを防止しましょう。
- 重いものは下の段に置きましょう。



ガラス
- ガラスなどには、飛散防止フィルムを貼りましょう。

地域の防災対策

地域の防災活動に積極的に参加しましょう！

平常時の活動例

1. 地域の協力体制を確立する
- 地域の情報連絡網の作成
- 平常時・災害時の役割分担

2. 地域の防災のルールなどを話し合う
- 避難時、避難所生活、復旧時のルール
- 集落（地区）行動計画の作成

3. 地域の危険箇所、防災施設などを把握する
- 河川やがけ等の危険箇所、避難所等の施設
- 地域の防災マップの作成

4. 防災訓練・防災講演会などに参加する
- 積極的に参加して防災に関する知識を向上
- 場合によっては地域が主体となって実施

5. 要配慮者への対応を話し合う
- 要配慮者の所在・状態の把握
- 日頃からの声掛け、地域ネットワーク作り

災害時の活動例

1. 火事の場合

消防車などが到着するまでの間、初期消火など
- 無理のない範囲で初期消火、１１９番への通報
- 消防車や救急車の誘導、発生状況の伝達

2. 台風・大雨などによる災害の場合

地域住民を安全な場所に避難誘導
- 災害が予想される場合の率先避難
- 避難所などへの避難誘導、要配慮者の補助

3. 地震などの大規模災害の場合

救助が到着するまで、避難生活での助け合い
- 地域で助け合っての救出・救助、応急処置
- 避難誘導、避難所運営への積極的な参加

共助

行政の防災対策

村の取組みを活用し、安全化を目指しましょう！

耐震診断
耐震改修

原村では、長野県と協力し、昭和 56 年 5 月 31 日以前に建築工事に着手した木造住宅の耐震診断を推進しています。
まずは、無料の耐震診断を受け、地震に対する備えを進めましょう。

1．専門家による精密診断＜全額補助＞
↓耐震改修が必要と判定された場合
2．耐震改修の実施＜工事費の補助＞

1．専門家による精密診断

対象要件を満たす住宅について、専門家による精密診断を行います。希望される方は、専用の申込書を環境係に提出してください。
※全額補助のため無料で受診できます。

2．耐震改修の工事費の補助

耐震改修が必要と判定された場合、希望する方は、補助対象工事費の 1/2 を村が補助します。
※補助額の上限は 60 万円です。

問合せ先 建設水道課環境係
電話 79-7933

公助